

Heartful Day

北条高校人権委員会

令和7年2月4日

No. 175

一聴覚障がい者の人権を考えるー 松山聾学校生との交流学習会報告

12月17日(火)、松山聾学校高等部生徒と本校人権委員会及び有志生徒による交流学習会を、本校を会場に実施しました。今回はその活動報告とともに、聴覚障がい者の人権について考えていきます。

松山聾学校生との交流学習会

1 愛媛県立松山聾学校について

松山聾学校は、聴覚に障がいのある児童・生徒が通っている学校です。補聴器や人工内耳を装用し、手話や読唇などでコミュニケーションをとっています。学校は松山市馬木町にあり、最寄りの駅はJR伊予和氣駅です。北条高校に最も近い、お隣の県立学校です。本年度は、高等部に7名の生徒が在籍しています。詳しくは、松山聾学校ホームページをご覧ください。

<https://matsuyama-sd.esnet.ed.jp/>



愛媛県立松山聾学校

2 開会行事・自己紹介

人権委員長による挨拶の後、互いに自己紹介を行いました。本校生徒は、名前を、簡単な手話と指文字を使って、その他の項目は色画用紙に文字で書いて自己紹介を行いました。



指文字・色画用紙を利用した自己紹介

3 昼食・アクアランド見学

食事をしながら、お話をするのは楽しいものです。聾学校の皆さんからいろいろ質問を受け、文字に書いたり、身振り手振りで答えました。昼食後はアクアランドの見学をしました。写真は北条高生がガイドをしている様子です。



昼食



アクアランド見学

4 レクリエーション

昼食後は、お互い用意してきたレクリエーションを実施しました。今回は、松山聾学校の用意した「ジェスチャー伝言ゲーム」と本校が考えた「新聞パズル」を実施しました。いずれも、言葉や手話を使わず、身振り手振りで意思の疎通を行いました。とても楽しく活動することができました。



ジェスチャー伝言ゲーム



新聞パズル



松山聾学校交流学習会に参加して

参加した生徒の、感想を紹介します。

- ・楽しかった。みんなと仲良くできてよかった。
- ・短い時間だったが、この交流を通して、松山聾学校の皆さんと、絆が深まったと思う。
- ・最初は緊張していたが、松山聾学校の皆さんが、たくさん話しかけてくれて、緊張もほぐれ、楽しく交流することができた。
- ・声に出さなくても、手で表現したり、口の形で伝えたりと、コミュニケーションを図ることができてよかった。
- ・コミュニケーションを上手く図るためには、自分から積極的に話しかけることが大切だと分かった。
- ・聴覚に障がいがある、ないは関係ない。同じ高校生として楽しく交流できたことがよかった。
- ・手話や指文字を覚えるのが難しかったが、手話に興味を持った。自分も手話ができるように勉強してみたい。
- ・また交流会に参加したい。



聴覚障がいマークについて



聴覚障がいを示すマークを紹介します。



(左) 聴覚障害者標識

聴覚障がいの方の運転する車に表示することが義務付けられているマーク。

(右) 耳マーク

聞こえが不自由なことを表すと同時に、聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を表すマーク。

聴覚障がいの方は、見た目障がいが分からない、分かりにくいために、誤解されたり、不利益を被ったりと、社会生活上の不安が少なくありません。このマークを提示された場合は、手話や筆談など、コミュニケーションの方法に配慮が必要です。



手話を覚えてみませんか？



『人間の輪』に「コラム 手話を知っていますか」が掲載されています。

「手話は、手の動きや顔の表情や体のしくさなどによって、ものごとの意味や内容を相手に伝える「見ることば」です。聴覚に障がいがあって、耳で聞いたり口で話しかけたりすることが困難な人たちの大切なコミュニケーション手段です。

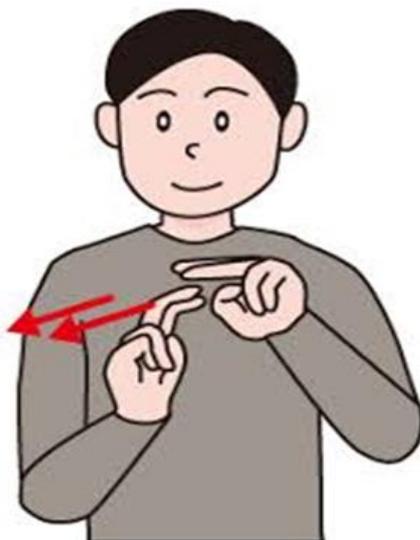
「こんにちは」と「ありがとう」が記載されてあります。再読してみましょう。

交流会では、松山聾学校の皆さんにいくつかの手話を教わり、実際にやってみました。



「猫」

右手拳の親指で頬をなでると猫になります。
猫の仕草に似ていますか？



「電車」

右手の曲げた二指を、左手の伸ばした二指に沿って動かします。
右手の二指が線路で、左手の二指が電車を示しています。

障がい者の人権を考えるには、まずは障がいのある方や、その障がいについて「知る」ことが大切です。いろいろな交流、経験を生かして「共に生きる社会」を作っていきましょう。

担当 1年次人権委員